

第1回嬉野市未来技術地域実装協議会

議事録

1. 開催概要

日時：2021年11月19日（金）14:00～15:30

場所：嬉野市文化センター 2階会議室

2. あいさつ

嬉野市 村上市長

- ・ 新幹線の駅前開発の中で新しい取り組みを推進していくという趣旨にご賛同いただき、御礼申し上げます。
- ・ 内閣府の未来技術社会実装事業に採択されたことから、今後は、皆さんのお力をいただきながら実現していくという段階に入ったと考えている。
- ・ 新幹線駅周辺のまちづくりに関しても11月14日に開業1年前イベントを行った際に駅前のパース図等を発信させていただいた。
- ・ 駅前整備の大きなコンセプトとして、基本的に官民連携で取り組んでいくことを掲げている。駅前に人を集めるというのがこれまでの手法であったが、コロナ禍による皆様の意識の変化を受けて、嬉野市では、一つのところに集める密となるような考えではなく、魅力的なスポットにつなげていく「つながる駅」をコンセプトに取り組んでいる。
- ・ 現在、国土交通省からのご理解を得て、道の駅として整備を進めていっているところであり、さらに、民間の皆さんと連携しながら外資系ホテルの整備という話題も挙がっており、いろんな方がまちづくりの方向性に賛同いただいていることを力強く感じている。
- ・ 新幹線駅に降り立った瞬間にわくわくするような仕掛けをつくるのが、この協議会の目指すところではないかと考えている。
- ・ VR、自動運転、大きな荷物を預けて様々地域に気兼ねなく出かけていく旅の出発点を目指していきたいと考えており、これを具現化していくことが我々の役目であると考えている。
- ・ 委員の皆様には、様々な分野のスペシャリストとして名をはせている方に集まっていただいているが、忌憚のないご意見を願いたい。



嬉野市 村上市長

現地支援責任者挨拶（国土交通省九州地方整備局 谷川道路情報管理官）

- ・ 今年度より嬉野市が主体として取り組む「未来技術社会実装事業」は、政府のスマートシティ関連事業として、関連する省庁による総合的な支援を持って実施している。
- ・ 国土交通省では、未来技術社会実装事業と連携して自動運転技術導入支援事業を実施しており、今般、嬉野市の事業が支援対象事業となったが、その中で、関係省庁である私が現地支援責任者という役割を仰せつかった。
- ・ 国土交通省では内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム



国土交通省 谷川道路情報管理官

(SIP) の予算を活用し平成 29 年度から全国 18 箇所において道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験を実施している。九州地方整備局管内においても、福岡県みやま市、熊本県芦北町で実証実験の取り組みが実施されている。特に福岡県みやま市の取り組みにおいては、実証実験による技術的検証を受けて本年 7 月から九州で初めて自動運転サービスの本格導入が始まった。

- ・ これらで得られたノウハウやスキームを活用しながら、嬉野市においても、自動運転サービス導入に向けたサポートをさせたいと考えている。
- ・ 西九州新幹線が来年秋開業の予定となり、今回の事業では様々な取り組みが計画されているが、関係省庁と連携した横断的な調整を図りながら、未来技術を活用して地域課題の解決を目指す取組みを支援し、最終的に本格実装に向けて現地支援責任者の役割を務めていきたいと考えている。

3. 委員紹介

- ・ 各委員から自己紹介

4. 議事 嬉野市未来技術地域実装協議会規約（案）

- ・ 事務局から規約の説明

5. 事業概要

（1）未来技術社会実装事業の概要（国土交通省 谷川道路情報管理官）

- ・ 資料説明

（2）嬉野市の提案の概要（嬉野市）

- ・ 資料説明

6. 質疑

- ・ 国土交通省、佐賀県に支援をいただいて Maas の取り組みを実施させていただいている。嬉野温泉駅で降りていただいたお客様に、武雄、鹿島方面へも周遊してもらうため、スマートフォンを活用したフリー乗車券、お店で使えるクーポン券などの取り組みを実施したいと考えているが、これらはあくまでツール・手段であるため、嬉野市を含めて、いろんなところを回遊してもらう仕組みを考えていきたい。（祐徳自動車）
- ・ 30 年くらい前に、とある方が、今後はインターネットが流行するという話を言っていて、その時、私が「嬉野市温泉で旅館業をやっているが、いくらインターネットでいろいろな情報が伝達できても、温泉に入ったり料理を食べたりできない。それが現地の強みです。」と、言っていたことを思い出した。今の説明を聞いていて、VR では、人間の五感の中で視覚と聴覚はかなり現地に来た感覚をもたらすことができるが、残りの触覚、臭覚、味覚については、技術的には、まだ体験ができないと思う。未来技術社会実装事業として、そこにもチャレンジしてほしい。あまり、全部が体験できると旅館業界が成り立たないが、においや肌触りを伝えるような取り組みがやれないものかと考えている。（嬉野市商工会）



会議の様子

- ・ 技術は日進月歩であるので、そういう観点もにらみながら、夢のある話をしていきたい。（村上市長）
- ・ 資料中に 5 G を活用した各種データ収集・提供とあるが、5 G については我々も非常に注目しており、どのような活用を考えているか教えてほしい。（佐賀県）
- ・ 5 G は一つのテーマとして挙げている。大量のデータを通信できるという強みがある。V R の情報通信を、最初は駅前エリアで取り組むが、その後、高速通信を商店街等へ展開して、動画配信や、リアルタイム通信等に活用したいと考えている。ただし、現状は、嬉野市については 5 G エリアでなく、条件面で苦しいため、ローカル 5 G で展開できるかということを考えつつ、まずは Wi-Fi 環境や 4 G 環境等を使って取り組みを進め、将来的には 5 G 導入を検討する方向としたい。（協力企業）
- ・ われわれも 5 G 技術については非常に期待しており、これを活用した VR や自動運転に取り組みたい。（佐賀県）
- ・ 佐賀県では、VR や自動運転等の新しい技術を県民に見ていただき触れてもらうという事業を現在実施中である。街並みを仮想現実で表現するとあったが、われわれは Google をつけて仮想の世界に入って、その中で機械組み立てを共同で行ったり、世界のフェスティバルに参加するとか、実際にショッピングができたりするものである。県民の方々からも「驚いた」「素晴らしい技術だ」という意見があった。われわれは体験までであったが、嬉野市の取り組みは地域の発展、地域の方々のビジネスにつながるきっかけになってくれれば良いと考えている。佐賀県の取り組みの情報についても共有しながらやっていきたい。パーソナルモビリティについては、久留米工業大学で開発した「言葉でどこに行きたいと言ったら連れて行ってくれるような技術」の実証実験をしていたところである。吉野ヶ里歴史公園など広い場所で実施したが、「体力的にきついのが改善される」「お年寄りでも元気に外に出られる」「公園の楽しみ方が増える」「安全な走行で乗っていて楽しかった」等の意見をいただいた。こうした技術は嬉野市の観光振興につながると考えている。新しい技術を、県内市町と一緒に考えて、県民の方々に享受できたら良いと考えている。（佐賀県）
- ・ バリアフリーの観点は非常に重要で、高齢者の移動に役に立つ。是非、引き続きお話を聞かせていただきたい。（嬉野市商工会）
- ・ バリアフリーに関しては、国の方からもバリアフリーツアーに向けた計画を作るように言われている。引き出しは多い方が良いので、地域から取り組んでいきたい。（村上市長）